



プレクルーズトレーニング開催報告書

海洋研究開発機構 地球深部探査センター
企画調整室/J-DESC サポート 御中

提出年月日：平成 25 年 10 月 21 日

氏名：北島 弘子

所属（職名）：産業技術総合研究所（研究員）

乗船航海名	Expedition 348 NanTroSEIZE Plate Boundary Deep Riser-3
出張期間（移動を含む）	平成 25 年 10 月 08 日 ～ 平成 25 年 10 月 09 日
実施場所	海洋研究開発機構高知コア研究所
<u>実施による成果と今後の計画（400 字以上）</u> 海洋研究開発機構高知コア研究所で 10 月 8-9 日の二日間行われた Expedition 348 のプレクルーズトレーニングに、Physical properties specialist として参加した。1 日目は、IODP の仕組み、サンプリングポリシー、mud gas モニタリングに関して説明を受けた後、各乗船研究者の乗船後研究についての発表が行われた。私は、IODP NanTroSEIZE の Stage 1 および Stage 2 のサンプルを用いていままで取り組んできた自身の研究内容を紹介するとともに、Expedition 348 の研究計画を発表した。 2 日目は、Expedition 338 に乗船していた東京大学大気海洋研究所の山口飛鳥氏から Expedition 338 の結果報告および cuttings のワークフローおよび観察・分析について注意すべき点について Expedition 338 の cuttings 実物を用いて説明を受けた。私も Expedition 338 乗船研究者の一人として、特に Expedition 338 航海中に観察された drilling-induced cohesive aggregates (DICAs) および DICAs の MAD 測定に与える影響などについて説明を加えた。 今回は去年の Expedition 338 に引き続いての乗船となるが、Expedition 338 の結果や cuttings を用いた分析方法の注意事項・問題点などをプレクルーズミーティング中に Expedition 348 乗船者と共有できたことは大変有意義であった。	
備考	



プレクルーズトレーニング開催報告書

海洋研究開発機構 地球深部探査センター
企画調整室/J-DESC サポート 御中

提出年月日： 平成 25 年 10 月 24 日

氏名： 大坪 誠

所属（職名）：産業技術総合研究所（主任研究員）

乗船航海名	Exp 348:NanTroSEIZE Plate Boundary Deep Riser - 3
出張期間（移動を含む）	平成 25 年 10 月 8 日 ～ 平成 25 年 10 月 9 日
実施場所	JAMSTEC 高知コア研究所
<u>実施による成果と今後の計画（400 字以上）</u> <p>本報告者は、JAMSTEC 高知コア研究所で開催された Exp348 プレクルーズトレーニングに出席したので以下その内容を報告する。</p> <p>本報告者は、プレクルーズトレーニングに参加した本乗船研究者およびスタッフと、本航海での目的、本航海における日程（航海前まで、航海中、および航海後のそれぞれの日程）を確認することができ、本乗船研究者およびスタッフとの本航海における連携を確認できた。本報告者は、このプレクルーズトレーニングにおいて本航海での研究計画を発表し、その本航海での研究計画に対してプレクルーズトレーニング参加者から議論を通じてコメントおよびアドバイスを受け、自身の計画が改善された。本航海乗船までに、今後より一層の検討を行うことで、本航海でのよりよい研究実施に努めたい。あわせて、構造地質以外を担当する研究者と個々の研究内容を、議論を通じて共有化できたことは有意義であった。</p> <p>また、本航海で採取が予想されるカッティングス試料、コア試料の取り扱いを、本乗船研究者およびスタッフと船上での作業フローチャートを確認しながら、自身の本航海中の船上での作業内容を確認した。特に、構造地質学者として、本航海で採取されるカッティングス試料やコア試料の取り扱い・構造記載の確認を行うことができた。本航海乗船までに、試料からの構造地質情報の取得方法に関しては情報収集を行う予定である。</p>	
備考	



プレクルーズトレーニング開催報告書

海洋研究開発機構 地球深部探査センター
企画調整室/J-DESC サポート 御中

提出年月日： 平成 25 年 10 月 15 日

氏名： 福地 里菜

所属（職名）： 東京大学院 理学系研究科 地球惑星科学専攻 研究生

乗船航海名	Exp. 348 NanTroSEIZE Stage 3 Plate Boundary Deep Riser-3
出張期間（移動を含む）	平成 25 年 10 月 8 日 ～ 平成 25 年 10 月 9 日
実施場所	高知大学海洋コア総合研究センター
実施による成果と今後の計画（400 字以上）	
<p>10/8（火）13 時～18 時： ミーティング</p> <p>— 日程 —</p> <ul style="list-style-type: none">・ サンプリングポリシー説明・ 航海科学目標・掘削現状・ 各自の研究計画発表（1 人 10 分程度）+Discussion <p>ここでは、主に乗船研究者とのサンプルリクエスト調整を行った。私は、温度履歴の変遷を解き明かすために、ビトリナイト反射率で最高被熱温度(クロスチェックにイライト結晶化度)とアパタイト FT を行う予定である。この発表に対して、「アパタイト FT の欠点に対してどうすると一番良いかをやっている方に伺うとよい」、「ラマン分光分析もトライしてほしい」など、様々なアドバイスをいただいた。なので、いただいたアドバイスを取り入れて、最善をつくり、更なる成果をあげられるよう努力したい。</p> <p>10/9（水）9 時～12 時： 事前説明・事前訓練</p> <p>— 日程 —</p> <ul style="list-style-type: none">・ 船上業務・計測フロー説明・ Exp 338 カッティングス試料計測・観察・分析 <p>解散後、山口さんをお願いして、カッティングスを用いてスミアスライドを作成した。よく、マニュアルや COOKBOOK を参照して臨みたい。</p>	
備考	



プレクルーズトレーニング開催報告書

海洋研究開発機構 地球深部探査センター
企画調整室/J-DESC サポート 御中

提出年月日： 平成 25 年 10 月 11 日

氏名：山本由弦

所属（職名）：海洋研究開発機構（研究員）

乗船航海名	Expedition 348
出張期間（移動を含む）	平成 25 年 10 月 7 日 ～ 平成 25 年 10 月 9 日
実施場所	高知コア研究所
<u>実施による成果と今後の計画（400 字以上）</u> プレクルーズトレーニング実施により、航海の目的、IODP の各ポリシーやオブリゲーションの確認がなされ、日本人各研究者の研究計画が詳細に話し合われた。これにより、各人の研究目的と方法、計画が明確になり、データ共有やサンプルリクエストの修正・共同提案などの道筋が明確になった。 問題に感じたのは、科学ではなくオペレーション最優先の姿勢である。今航海の 2400-2500mbsf コアリングの明確な目的が見えず、むしろほとんどの科学者が必要と述べていた 3600mbsf 付近のコアリングは編成および人員の入れ替えが困難という理由で実施が難しいというのは、どうか。 2 日目にはカッピングス処理について、サンプルフローの詳細な説明と、実践的な処理手法の説明が行われた。カッピングス研究は IODP の中では未開拓分野で、科学的研究ができるかどうかについては試行が必要である。数少ない連続データになり得る生層序データが限定されるのは、科学的損失と思われる。 プレクルーズトレーニングの成果を反映し、乗船研究を今後行いたい。	
備考	



プレクルーズトレーニング開催報告書

海洋研究開発機構 地球深部探査センター
企画調整室/J-DESC サポート 御中

提出年月日：平成25年10月11日

氏名： 淵田茂司

所属（職名）：大阪市立大学大学院 理学研究科

乗船航海名	NanTroSEIZE Exp. 348
出張期間（移動を含む）	平成25年10月8日 ～ 平成25年10月9日
実施場所	高知コアセンター
<u>実施による成果と今後の計画（400字以上）</u> 本会議では、今年度行われる NanTroSEIZE Exp. 348 の概要についての説明があった。説明の大部分が、船上における我々サイエンティストの仕事の内容についてであった。私自身初めての航海参加ということもあり、わからない部分がかかなり払拭された。また、参加者それぞれのサンプルリクエストや研究内容についても話し合った。これらを通じて、他研究者の研究内容や目的などについて理解することができた。2日目には実際のカッティングスやコアなどの試料を見学した。実際の試料を目にすることで、乗船後の試料の取扱いやサンプルリクエストの再考に役立った。 これらミーティングで培われた知識を基に実際に乗船に向けた準備をすることとなる。チーフや EPM の方々と話し合いながら、船上で作業がスムーズに進むように努力していきたい。また、分析に向けた準備も行っていきたい。今回得られる試料をより迅速に処理し、価値あるデータを提出できるよう、最大限努力をしていきたいと考えている。	
備考	